

|          |                                                                           |
|----------|---------------------------------------------------------------------------|
| 研究<br>主題 | 英語で自分の思いや考えを表現し合う力を伸ばす学習指導を目指して<br>一話す活動における達成リストの活用と Small Talk の充実を通して－ |
|----------|---------------------------------------------------------------------------|

## 第3学年外国語科学習指導案

指導月日 令和5年10月27日

所属校名 大河原町立大河原中学校

氏名 門馬 直史（T1）

## 1 単元名「Unit4 Be Prepared and Work Together」（東京書籍 NEW HORIZON English Course 3）

## 2 単元の目標

日本に住む外国人が災害に備えられるように、災害に対する情報について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、質問に答えたりすることができる。

## 3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領外国語編第2節英語1目標(3)話すこと〔やり取り〕に示されている事項のうち、「ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べることができるようにする」に基づいて設定している。

内容については、日本で過ごす外国人の地震の体験談や防災に対する外国人市民意識調査、防災への備え、災害時の外国人支援について取り扱われている。本校は防災教育に積極的に取り組んでおり、多くの生徒は避難所開設訓練や水害想定防災ハザードマップ作成などを体験している。この単元を学習することによって、自分が防災活動で経験したことを生かしながら、災害などの緊急時に役立つ語句や文などを学んだり、日本と日本以外の国での自然災害に対する背景知識が異なることを理解したりすることが期待できる。

言語材料としては、間接疑問文の文構造、現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法（後置修飾）が取り扱われている。これらを身に付けることで、事実や情報をこれまでより具体的かつ正確に伝えることができる単元となっている。

## 4 生徒の実態〔第3学年1組33名〕

本学級の生徒は、Small Talk やインタビュー、ロールプレイングなどの言語活動に前向きに参加し、ペアやグループ学習では、互いに教え合うなど言語活動を楽しむ雰囲気ができている。授業冒頭で帯活動として行っている身近な話題について即興で伝え合う Small Talk では、大部分の生徒が設定した時間の会話を継続することができる。

## (1) 意識調査の結果から

表1 英語の学習に関する意識調査（令和5年9月実施 29名回答）

| A：そう思う B：どちらかと言えばそう思う C：どちらかと言えばそう思わない D：そう思わない<br>(数値は人数、括弧内は6月実施時の数値) |      |        |        |      |
|-------------------------------------------------------------------------|------|--------|--------|------|
| 質問項目                                                                    | A    | B      | C      | D    |
| (1) 英語でやり取りをするのは好きですか。                                                  | 3(8) | 17(13) | 9(6)   | 0(1) |
| (2) やり取りの中で自分の思いや考えを表現することはできていますか。                                     | 5(1) | 9(14)  | 15(13) | 0(0) |
| (3) やり取りの中で思い浮かんだ内容が表現できなかったとき解決しようとしていますか。                             | 6(7) | 19(17) | 4(3)   | 0(1) |

|                                                                                                                                 |       |        |      |      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------|------|------|
| (4) 思い浮かんだ内容が表現できない場合にどのように解決しようとしていますか。(複数回答可)<br>・タブレットで調べる…22(21) ・友達に聞く…22(19) ・先生に聞く…20(17) ・ワークシートで調べる…6(11) ・ALTに聞く…5(5) |       |        |      |      |
| (5) 英語でやり取りをするときに、相手のことを意識して話すことができていますか。                                                                                       | 10(6) | 14(17) | 5(5) | 0(0) |
| (6) 英語をやり取りする際にできていると思うことを選んでください。(複数回答可)<br>・相づちなどの反応…24(21) ・適切な声の大きさ…23(16) ・アイコンタクト…19(10) ・反応し、質問を返す…12(10) ・適切な速さ…10(5)   |       |        |      |      |

表1は、本単元に入る前に行った英語学習に関する意識調査である。質問(1)では、6月に実施した調査よりも否定的な回答をした生徒が増加した。教科書の単元が進むにつれて、社会的な話題などのより複雑な内容が取り扱われることや語句や文の構造などの言語材料も複雑になることから難しさを感じている生徒が多くなっていると考えられる。質問(2)では、否定的な回答が全体の半数を超える結果となった。肯定的な回答をした生徒からは、「いろいろな表現が使えるようになることで、誰とでも話せるようになった」「英語の語彙力が上がって、言いたいことが言えるようになるのが楽しい」といった記述があった。否定的な回答をした生徒からは、「単語が分からない」「言い方が分からない」「話したいことを英語にするのが難しい」という記述があった。質問(2)の結果から、自分の思いや考えを述べることに自信を深めている生徒がいる一方で、単語などの基本的な部分から表現の仕方まで、それぞれが抱える苦手な部分を個別に支援する手立てが必要な生徒がいることが分かった。質問(3)と質問(4)からは、思い浮かんだ内容を英語で表現できなかった際に、すぐにタブレットで調べたり、友達や教師に聞いたりして解決を試みる生徒が多く、過去のワークシートなどを活用して、自分自身で既習事項を振り返って自力で表現しようとする習慣が定着していないことが明らかとなった。相手意識に関する質問(5)(6)の回答からは、やり取りを円滑にする非言語的なコミュニケーションへの高まりは見られたが、相手の発言に質問を返すなど、やり取りの内容を深めることに関しては、ほぼ変化が見られなかった。

## (2) 授業実践Ⅰから

7月にUnit3の単元で授業実践Ⅰを行った。生徒は授業の中でループリック形式のリストを用いて、それぞれの目標項目に向かって話す活動に取り組んだ。ペア活動において、リストを活用して具体的に確認し合うことで、生徒同士で表現の修正をしており、主体的に学び合う様子が見られた。しかし、リストの項目に抽象的な記述があり、生徒自身では達成状況の判断が難しいことがあった。また、Small Talkにおいて、単元のゴールに向けて、社会的な話題に関するやり取りの経験を積ませた。その中で、教科書以外の英文を読んで、自分の考えを伝え合う活動を行ったが、自分の考えを整理するためのメモの作成に時間がかかったり、会話が续かず不自然な間や沈黙があったりするなど、自分の思いや考えを伝えるまでに至らなかったペアが見られた。

## 5 指導観

本校は防災教育として火災、地震、水害に対する避難訓練や防災ハザードマップの作成、地区防災訓練、有志生徒による避難所開設訓練などを行っている。このような経験で学んだ知識を生かし、単元で取り扱われる内容について自分事として考えながら学習させるようにする。

研究主題に迫るために、授業実践Ⅰの課題から、単元全体で話す活動において身に付けさせたいことをより具体的な内容で記した「達成リスト」を示す。1時間の授業では、達成リストのどの項目について学んでいくのかを示す。生徒は、活動中や活動後に達成リストを用いて、各項目の達成状況をペアで確認し合ったり、達成リストの結果を基に個々で振り返ったりする。また、教師は活動中の様子を見ながら、既習事項を用いた語句や表現を全体に助言したり、生徒の良い表現などを紹介したりする。生徒がそれぞれに抱える単語や表現への苦手意識を取り除くことができるように、単元の話題に関係のある語句や表現の既習事項を中心にまとめたワークシート（以下「お役立ちシート」とする）を作成し、毎時間Small Talkなどの活動の際に活用させる。生徒がお役立ちシートを活用して既習事項を繰り返し口に出したり聞いたりすることで、既習事項をスムーズに表現できるよう、継続して指導していく。

Small Talk については、生徒に目指す姿について具体的なイメージを持たせるように、教師は意図的に既習事項を用いて生徒に質問したり、デモンストレーションを行ったりする。また、本単元では相手の話に対して同意したり、聞き直したり、もっと聞きたいと思ったことを質問したりするなど、やり取りを発展させる技能の習熟を図り、互いの思いや考えをこれまで以上に表現できるようにする。そのため、Small Talk の中で相手が更に話を続けるようなリアクションや質問を返す活動などを取り入れていく。授業実践Ⅰでは、メモを取らせて話したことを整理するという手立てを講じたが、メモの活用方法についての指導が不十分であった。本単元では、具体的に生徒自身にその内容を思い起こすことができる単語を何語かキーワードとして準備させて、話す順番や、必要な主語や動詞を考えさせる。

本単元の最後には、「災害に関する文章を読み、自分の考えを整理して話したり、質問に答えたりする」ことを目標に、パフォーマンステストを実施する。そこで、本単元の Small Talk において、単元のゴールに関連付けた文章を読み、自分の思いや考えを表現する経験を積ませる。その際、メモを用いて、自分の思いや考えを整理させた上で、やり取りを行わせ、単元に関わる語句や文を使えるようにする。

単元を通して、達成リストで1時間ごとに明確な目標を持たせながら、級友との対話で、繰り返し自分の思いや考えを積ませる経験をさせる。Small Talk の中では、既習事項を繰り返し活用させ、日常的な話題から社会的な話題まで幅広い内容でコミュニケーションを図る楽しさに気付かせながら、自分の思いや考えを表現し合う力を高めていきたいと考える。

## 6 研究主題との関連

### (1) 身に付けさせたいリストの提示

#### ① リスト項目の具体化

授業実践Ⅰの課題から、単元を通して身に付けさせたい力をより具体的に記述し、そのリストを「達成リスト」とした。1時間ごとの授業では、授業における話す活動で達成リストの中から取り上げた項目を目標として示し、その授業で身に付けさせたい力を明確にする。授業の振り返りの中で、本時の達成状況について達成リストを用いて確認させる。また、分からなかった表現や疑問点などを記入させ、その授業や次の授業で全体に助言したり、既習事項をうまく活用した表現などを紹介したりする。

### (2) 自分の言葉で思いや考えを表現し合うための Small Talk の充実

#### ① 既習事項を活用して技能の習熟を図る Small Talk

英語で思いや考えを表現させるために、相づちや質問の返し方、同意する・同意しないなど単純な対話練習のときでも場面・状況を与える。その中で、自分の思いや考えを伝えたり、相手の意見に質問する練習をしたりするなど、様々な場面において円滑にやり取りする経験を積みながら、既習の語句や文を活用できる技能の習熟を図る。また、単元の始めに本単元に関係する語句や表現の既習事項を集めたお役立ちシートを配付し、授業の中で活用させながら既習事項における技能の習熟を図る。

#### ② 思考力・判断力・表現力を高める Small Talk

本単元の話す活動は、災害に対する外国人の体験談などを理解した上で、自分の思いや考えを表現しなければならないため、生徒にとって容易に即興でやり取りできる活動ではないと考える。より複雑な内容におけるやり取りにおいて、目的・場面・状況を明確に分かりやすく生徒に伝え、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。複雑な内容であっても自分の思いや考えなどを話せるように、メモを用いて思いや考えを整理させる。メモを作成する際は、まず伝えたいことのキーワードをメモし、次に、伝える順番やキーワードの主語と述語を考えさせる。そして、キーワードを見ながらやり取りさせるようにする。

また、これまでの指導において、話す経験を積みせたいと考え、ペアで話す活動の回数を多く設定してきた。今回の話す活動では、授業実践Ⅰの課題を踏まえ、ペアで話す活動の回数を増やすだけで

はなく、ペア活動の合間に自分の話した英語を再考させたり、ペアで話し合ったりする時間を十分に確保し、生徒の思いや考えを引き出す。

## 7 単元の指導と評価の計画

### (1) 単元の評価規準

| 知識・技能                                                                                                                    | 思考・判断・表現                                                                      | 主体的に学習に取り組む態度                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| ①<知識>間接疑問文の文構造、現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法（後置修飾）を理解している。<br>②<技能>防災対策について、自分の考えや気持ちを整理し、上記の表現を用いて、伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 | ①日本に住む外国人が災害に備えられるように、災害に対する情報について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、質問に答えたりすることができる。 | ①日本に住む外国人が災害に備えられるように、災害に対する情報について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、質問に答えたりしようとしている。 |

### (2) 単元の全体計画（10 時間扱い 本時 9 / 10） ○：学習状況の確認 ●：記録に残す評価

| 時間 | ねらい■・言語活動等（丸数字）                                                                                                                                        | 評価 |   |   |                                                                                                                                                                                                     |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                                                                                                                        | 知  | 思 | 主 | 備考                                                                                                                                                                                                  |
| 1  | [Preview]<br>■災害についての会話を聞き、分かった内容について伝え合うことができる。<br>①単元の目標と学習内容を確認する。<br>②対話文を聞き、聞き取った内容について伝え合う。<br>③単元で生徒が使いそうな既習の単語や表現を確認、発音や意味を確認する。               | ○  |   |   | [単元を通して]<br>・単元の話題に関する「話すこと [やり取り]」の言語活動に取り組ませる。達成リストによって、単元で身に付けたいことを提示し、生徒に身に付けさせたい力を明らかにして指導する。<br>・Small Talk の際に、自分の思いや考えを表現する経験を積ませる。また、話し手に対して相づちをしたり、質問したりするなど、会話をつなげ、互いの思いや考えを引き出すように指導する。 |
| 2  | [Scene 1]<br>■自分が住んでいる地区のどこに避難所があるのか、知っているか尋ねたり、答えたりすることができる。<br>①間接疑問文の文構造を理解する。<br>②自分が住んでいる地区のどこに避難所があるのか、知っているか尋ねたり、答えたりする。<br>③外国人市民意識調査の情報を読み取る。 | ○  |   |   |                                                                                                                                                                                                     |
| 3  | [Scene 2]<br>■非常時持出袋の中身について、必要な物を考え、伝え合うことができる。<br>①非常時持出袋についての対話文の内容を学ぶ。<br>②間接疑問文を用いて、非常時に必要なものの使い方や置いてある場所を伝え合う。<br>③非常時持出袋の中身について必要な物を考え、伝え合う。     | ○  |   |   |                                                                                                                                                                                                     |
| 4  | [Mini Activity]<br>■人物について、情報を尋ねたり、答えたりすることができる。<br>①間接疑問文を用いて人物についてやり取りを行う。<br>②留守番電話に残されたメッセージを聞き取る。                                                 |    | ○ | ○ |                                                                                                                                                                                                     |
| 5  | [Read & Think1]<br>■写真やイラストの人物などについて、現在分詞の形容詞を用いて伝え合うことができる。<br>①新出語句と本文の内容を学ぶ。<br>②現在分詞の形容詞としての用法（後置修飾）を用いて、写真やイラストの中身について伝え合う。                       | ○  |   |   |                                                                                                                                                                                                     |
| 6  | [Read & Think1]<br>■外国人の被災体験談を読み、メモを基に思ったことや考えたことを伝え合うことができる。<br>①教科書の本文を読み、メモを基に思ったことや考えたことを伝え合う。                                                     |    | ○ | ○ |                                                                                                                                                                                                     |
| 7  | [Read & Think2]<br>■写真やイラストの物などについて、過去分詞の形容詞を用いて伝え合うことができる。<br>①新出語句と本文の内容を学ぶ。                                                                         | ○  |   |   |                                                                                                                                                                                                     |

|         |                                                                                                                                               |   |   |                                  |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|----------------------------------|
|         | ②過去分詞の形容詞としての用法（後置修飾）を学び、写真やイラストの中身について伝え合う。                                                                                                  |   |   |                                  |
| 8       | [Read & Think 2]<br>■災害時の外国人支援の取組に関する文章を読んで、メモを基に思ったことや考えたことを伝え合うことができる。<br>①教科書の本文の内容を読み、メモを用いて思ったことや考えたことを伝え合う。                             |   | ○ | ○                                |
| 9<br>本時 | [Unit Activity]<br>■英語で書かれた避難勧告情報メールを読み、メモを用いて自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。<br>①英語で書かれた避難勧告情報メールを読み、電話で状況などを伝えたり、質問に答えたりする。 |   | ○ | ・本時では単元を通して学習したことが身に付いているのかを見取る。 |
| 10      | [パフォーマンステスト]<br>■災害に関する文章を読み、メモを用いて自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。                                                            | ● | ● | ●                                |

## 8 本時の計画

### (1) 本時の目標

災害に関する文章を読み、自分の考えを整理し、メモを基に、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

### (2) 本時の指導に当たって

授業の導入時の Small Talk では、単元の中で登場した非常時持出袋に必要なものについて会話をさせ、どのような物が必要であるか英語でやり取りをさせて既習事項の習熟を図る。その際、相手意識を持たせてコミュニケーションを円滑にするための相づちやつなぎ言葉などのリアクション、会話を発展させるための質問の仕方などを指導し、思いや考えを表現し合う力の伸長を図る。

授業の展開の始めに、教師が話す活動のデモンストレーションを行う。その後、本時の目標を確認し、本時の達成リストを示す。達成リストの各項目とデモンストレーションの発話内容を照らし合わせた後、生徒自身に達成リストの各項目から、達成したい項目を選択させる。話す活動では、台風の接近に伴い、避難勧告情報メールが町から届くという場面を設定し、町内に住むALTにその内容を知らせ、次の行動を促したり、ALTの質問に答えたりする。その際、本校で取り組んできた防災活動を想起させ、自分たちにとって身近な話題として考えられるようにする。話したいことを整理するための手立てとして、メモを活用させる。メモは、話す際に、生徒自身がその内容を思い起こすことができる単語を何語かキーワードとして準備させる。そのメモを基に主語や動詞を考え、相手に分かりやすく伝えるように指導する。また、相手意識を持って、相づちなどのリアクションで会話を円滑に続けたり、相手の発言に関して質問を返すことで会話を発展させたりしながら、互いの思いや考えを引き出すことができているかを見取る。その際、個別や一斉の場面で生徒の良い表現を褒めたり、大切な表現に気付かせたりしながら指導に当たる。やり取りの際に分からなかった語句があった場合には、タブレットを使う前に、これまでに使用したワークシートなどを振り返り、自分自身で考えたり、ペアを組んでいる生徒と協力して表現する方法を考えたりする時間を設定する。

授業の終末では、提示した達成リストを基に、達成状況を確認させながら活動を振り返らせる。また、教師は生徒の達成状況を確認し、大切な語句や表現などを全体に紹介する。最後に、できたことに関して褒めたり、努力を要する点について具体的なアドバイスをしたりすることで、やり取りへの自信と次の授業への意欲を持たせる。

### (3) 学習過程

| 段階 | 学習活動               | 形態 | 指導上の留意点                      | 評価 |
|----|--------------------|----|------------------------------|----|
| 導入 | 1 挨拶などの簡単なやり取りをする。 | 一斉 | ・英語を話す雰囲気を作るためにテンポよく行う。(T 1) |    |

[illegible]

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                   |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                   | (4) Small Talk②を行う。考え直した文を用いて、(2)と同じ活動を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ペア                            | ・考え直したことが生かされているか確認する。(T1、T2)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | する。<br>[思判表<br>観] |
|                   | <p>話し手が内容を十分に伝え、更に既習語句で具体的なアドバイスをしている例</p> <p>S1 : Hi, Luke-sensei. This is Nao.<br/>S2 : Hi, what happened?<br/>S1 : I got an e-mail from our town. Typhoon is coming soon. Shiroishi River is dangerous.<br/>S2 : Really? What should we do?<br/>S1 : <u>You live near the river. You should go to the shelter. And you should bring an emergency bag.</u><br/>S2 : I see.<br/>S1 : <u>Do you know where you should go?</u><br/>S2 : Yes. Thank you for calling.</p> |                               | <p>話し手はなんとか内容を伝え、聞き手は話を引き出して発展させようとしている例</p> <p>S3 : Hi, Luke-sensei. This is Taro.<br/>S4 : Hi, what happened?<br/>S3 : Rain ...coming! Shiroishi river dangerous!<br/>S4 : <u>Wow, you mean typhoon will come?</u><br/>S3 : ...Yeah, you escape.<br/>S4 : Oh, that's too bad. <u>What should I do?</u><br/>S3 : Uh...go to shelter.<br/>S4 : OK. <u>What should I bring?</u><br/>S3 : Well...emer..emergency bag.<br/>S4 : Emergency bag? OK! Thank you.</p> |                   |
| 終<br>結<br>10<br>分 | <p>5 達成リストにできた項目とワークシートの振り返りを記入する。</p> <p>(1) 達成リストでできた項目を記入する。</p> <p>(2) 感想や自分の考えを表現できなかった文、質問などを記入する。</p> <p>6 挨拶をする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>一<br/>斉</p> <p>一<br/>斉</p> | <p>・教師は達成状況を確認し、大切な語句や文、生徒の良い表現などを全体に紹介する。(T1)</p> <p>・自分の考えを表現しようとしたが、表現できなかった文や質問などを書かせ、すぐにフィードバックできるものについては対応し、できないものについては次の授業でフィードバックする。(T1)</p> <p>・良かった点を褒めたり、努力が必要な点についてアドバイスをしたりする。(T1)</p>                                                                                                                                                                                                                                                            |                   |

(4) 本時の評価

| 項目       | 十分に満足できる (A)                               | 評価規準 (B)                                                            | 努力を要する生徒 (C) への手立て                                     |
|----------|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 思考・判断・表現 | ・評価規準 (B) に加え、文章に書かれていないことに会話を発展させることができる。 | ・災害に関する文章を読み、自分の考えを整理し、メモを基に、簡単な語句や文を用いて伝えたり、その内容について質問したりすることができる。 | ・ワークシートを基にどのような語句や表現でどのような内容を話せばよいか生徒と困っている部分を一緒に整理する。 |

(5) 準備物

①教師：教科書、タブレット端末、ワークシート、TV モニター

②生徒：教科書、ノート、ファイル、ワークシート、学習用タブレット端末

(6) 板書計画

|                    |                                                                     |                                                          |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| Friday, October 27 |                                                                     |                                                          |
| Goal               | <p>災害に関する文章を読み、自分の考えを整理し、メモを基に、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしよう。</p> | <p>語句や表現<br/>(話す活動の中で、生徒の良い表現や大切な表現など全体に伝えたいことを板書する)</p> |
| Small Talk:        | <p>Do you have any pets?</p> <p>・○○○ △△ □□</p>                      | <p>その他<br/>(必要に応じて既習の動詞の活用形などを板書する)</p>                  |

## Unit4 Unit Activity

Class( ) No.( ) Name( )

**今日の目標&達成リスト** ⇒目標とする項目のNo.を○で囲み、達成できたら☆を付けよう！

Goal:災害に関する文章を読み、メモを用いて自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

**達成リスト**

| No. | ☆ | 自分の考えを伝える力         |
|-----|---|--------------------|
| 1   |   | メモを基に自分の考えを整理する    |
| 2   |   | メモを基に自分の考えを整理して伝える |
| 5   |   | これまでに学習した表現を活用する   |
| 7   |   | 文章にはない内容まで対話を発展させる |

| No. | ☆ | 会話をつなげる力          |
|-----|---|-------------------|
| 1   |   | 話すスピードや声の大きさを意識する |
| 2   |   | 「つなぎ言葉」や「繰り返し」を使う |
| 5   |   | 相手の発言に対して質問をする    |
| 6   |   | 相手の質問に対して答える      |

☆あなたのスマホに町から災害時の避難勧告情報メールが届きました。伝えるべき内容についてメモを用いて自分の考えを整理し、大河原町に住むALTのマーク先生に電話で知らせよう！

▽翻訳先言語 ☒英語**Voluntary evacuation order information mail**

Because of the influence of the typhoon, flood warning information of Shiroishi River has been announced.

Residents near the river please escape to the shelter.(Ogawara Town)



メモ

**▼電話でのやり取りの始め方**

電話する側 : Hi, Luke. This is (あなたの名前).

マーク先生役 : Hi, \_\_\_\_\_. What happened?

電話する側 : \_\_\_\_\_

・  
・  
・

**振り返り…**①感想 ②表現できなかった文 ③質問などを記入しよう。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |